

2026年3月29日(日) 第1礼拝「架上の七言」ルカ23章24節

イエス様を信じるとは、イエス様の語られた御言葉を信じるということです。イエス様は十字架上で七つの言葉を語られました。その言葉を信じる恵みを分かち合しましょう。

第一番目、「父よ。彼らの罪をお赦してください。」イエス様は私たちの罪を赦すために、天からこの地上に来られた神の御子です。イエス様は私たちの罪をすべて背負い、十字架で死なれました。私たちには日々の重荷や疲れがありますが、イエス様の赦しを信じるなら、安らぎが来ます。イエス様はその公生涯で罪の赦しを多く宣言されました。その理由は、イエス様が私たちを赦してくださったように、私たちも他の人を赦すためです。ステパノも自分を石で打つ者たちの赦しを宣言しました。その結果、サウロは使徒パウロに変えられました。

第二番目、「あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」イエス様の赦しを信じるとすぐに天国です。イエス様とともに十字架につけられた二人の強盗は最初、イエス様をののしりました。しかし、イエス様の赦しの祈りを聞いて、その一人がイエス様を信じ、「あなたの御国の位にお着きになるときは、私を思い出してください。」と願いました。

第三番目、「女の方、そこにあなたの息子がいます。」イエス様は母マリアに「女の方」と言われました。イエス様はマリアの息子としてではなく、メシアとして十字架にかかり、罪を贖われました。カトリックは、マリアがイエス様を抱いた像を作り、マリアを崇拝します。しかし、これはバビロンの宗教であり、偶像には救いはありません。ですから、イエス様は「女の方」と言われ、はっきり線引きをされたのです。救いはイエス様にしかありません。

第四番目、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」イエス様は私たちの罪を背負い、罪となられ、神様に捨てられました。罪とは神様に捨てられることです。アザゼルのヤギは神様に捨てられ、荒野でさまよい、死にます(レビ記16章)。イエス様はそのアザゼルのヤギとなりました。死には二つあり、第一の死は肉体の死、第二の死は神様から捨てられることです。羊のようにさまよい、各々自分勝手な道に向かう私たちのすべての咎を、神様はイエス様に負わせられました。それは、私たちが神様に捨てられることがないためです。

第五番目、「かわく」渇きには、肉体の渇きと霊的な渇きがあります。地獄の火はサタンの舌であり、ののしり、嘲笑い、希望を完全に燃やす火です。私たちが受けるサタンの言葉の攻撃(地獄の火)をイエス様が受けられ、苦しみ、渇かれたのです。代わりに、私たちに永遠に渇くことのないいのちの泉(聖霊)を与えてくださいました。

第六番目、「テテレスタイ(完了した)」私たちが罪を犯して、サタンの奴隷となってきた罪の代価をイエス様がすべて支払い、完了してくださいました。サタンはもはや、私たちを罪に定めることはできません。これはイエス様の勝利の叫びであります。

第七番目、「わが霊を御手にゆだねます。」イエス様はこのように父に叫ばれ、三日目によりみがえられました。主の御手にゆだねるなら、主が勝利を与えてくださいます。私たちもイエス様の祈りから学び、主を愛し、感謝し、私たちの人生の一瞬一瞬を主にゆだねましょう。